

電子情報通信学会ワードテンプレート (タイトル)

ー 予稿集原稿形式 (サブタイトル) ー

電子 花子[†] 情報 太郎[‡] 通信 次郎[‡]

[†]第一大学工学部 〒105-0123 東京都港区山田1-2-3

[‡]大阪株式会社開発部 〒565-0456 大阪府吹田市河田4-5-6

E-mail: [†]hanako@denshi.ac.jp, [‡]{taro, jiro}@jouhou.co.jp

あらまし Microsoft Wordによる電子情報通信学会予稿集原稿形式のテンプレートファイルです。(300字程度)

キーワード Windows, Word, 信学技報, テンプレート

IEICE Word Template (Title)

ー The Format of Technical Report (Subtitle) ー

Hanako DENSHI[†] Taro JOUHO[‡] and Jiro TSUSHIN[‡]

[†]Faculty of Engineering, First University 1-2-3 Yamada, Minato-ku, Tokyo, 105-0123 Japan

[‡]R&D Division, Osaka Corporation 4-5-6 Kawada, Suita-shi, Osaka, 565-0456 Japan

E-mail: [†]hanako@denshi.ac.jp, [‡]{taro, jiro}@jouhou.co.jp

Abstract IEICE (The Institute of Electronics, Information and Communication Engineers) provides a word template file for the Technical Report of IEICE. (100 word)

Keywords Windows, Word, Technical Report, Template

1. はじめに

2025年度5月LQE研究会におけるご発表に際し、予稿を提出して頂きたいをお願いします。

2. 予稿の書き方

予稿のページ数は、4枚以上6枚以内として下さい。最初のページの上半分は、電子情報通信学会ワードテンプレートに準じて、日本語の題目、著者、所属、連絡先、あらまし、キーワードを記載下さい。続いて、英語でも題目、著者、所属、連絡先、あらまし、キーワードを記載して下さい。

3. 予稿の提出

原稿枚数: 4ページ以上6ページ以内。全ページ、電子情報通信学会ワードテンプレートを使用して下さい。

- ・著作権は全て著者に帰属します。
- ・提出形式: Wordファイルを提出して下さい。
- ・提出方法

Google Driveにて提出: 下記URLにアクセスし、原稿ファイルをアップロードして下さい。

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSff93_a1YCsnxfZi4iQVGA168W7tk-X5ug8OPfucJmNGyfcVg/viewform?usp=preview

- ・提出期限: 5月8日(木)

文 献

- [1] (雑誌の場合) 著者名, “標題,” 雑誌名, 巻, 号, pp.を付けて始め—終りのページ, 月(英語)年.
- [2] (雑誌例1) 山上一郎, 山下二郎, “パラメトリック増幅器,” 信学論(B), vol.J62-B, no.1, pp.20-27, Jan.1979.
- [3] (雑誌例2) W. Rice, A. C. Wine, and B. D. Grain, diffusion of impurities during epitaxy, Proc. IEEE, vol.52, no.3, pp.284-290, March 1964.
- [4] (著書, 編書の場合) 著者名, 書名, 編者名, 発行所, 発行都市名, 発行年.
- [5] (著書, 編書例1) 山田太郎, 移動通信, 木村次郎(編), pp.21-41, (社)電子情報通信学会, 東京, 1989.
- [6] (著書, 編書例2) H. Tong, Nonlinear Time Series: A Dynamical System Approach, J. B. Elsner, ed., Oxford University Press, Oxford, 1990.
- [7] (著書の一部引用する場合) 著者名, “標題,” 書名, 編者名, 章番号またはpp.を付けて始め—終りのページ, 発行所, 発行都市名, 発行年.
- [8] (著書の一部引用例1) 山田太郎, “周波数の有効利用,” 移動通信, 木村次郎(編), pp.21-41, (社)電子情報通信学会, 1989.
- [9] (著書の一部引用例2) H. K. Hartline, A. B. Smith, and F. Ratliff, Inhibitory interaction in the retina, in Handbook of Sensory Physiology, ed. M. G. F. Fuortes, pp.381-390, Springer-Verlag, Berlin.
- [10] (国際会議の場合) 著者名, “表題,” 会議名, no.を付けて論文番号, pp.を付けて始め—終りのページ, 都市名, 国名, 月(英語)年.
- [11] (国際会議例) Y. Yamamoto, S. Machida, and K. Igeta, “Micro-cavity semiconductors with enhanced spontaneous

emission, ” Proc. 16th European Conf. on Opt. Commun.,
no.MoF4.6, pp.3-13, Amsterdam, The Netherlands,
Sept.1990.

[12] (国内大会, 研究会論文集の場合) 著者名, “標題,”学会論
文集名, 分冊または号, no.を付けて論文番号, pp.を付けて
始め-終りのページ, 月 (英語) 年.

[13] (国内大会, 研究会論文集例) 川上三郎, 川口四郎, “紫外
域半導体レーザ,”1995信学全大, 分冊
2,no.SB2-1,pp.20-21,Sept.1995.